

# 「生命尊重」校長講話



「いのちのミュージアム 生命のメッセージ展ご遺族の言葉」数多くのメッセージの中で、交通事故でなくなった福原里美ちゃん9歳のお母さんが書いたメッセージを紹介しました。

生きてくても生きられない命がそこにはありました。生きていられることには、とても大きな意味があります。今こうして生きている私がいる。だからこそ教育者として命の尊さを、たくさんの機会<sup>（ママ）</sup>で伝えていかなければいけないと、強く思い、皆さんには次の言葉を伝えました。

君たちのいのちは一つしかありません。

かけがえのない大切ないのちです。

そのいのちを自ら閉ざしてはいけません。

いのちを永遠に守り続けてください。

他人のいのちを脅かしてもいけません。

他人がいのちを絶ちたいと思うような行為は決して行ってはいけません。

優しく温かい心をもってください。

そして、死ぬ順番というものがあります。

親が子どものお葬式をすることほど、辛いことはありません。

親から授かったいのちです。

明日につながる今日という日を精一杯力強く生きてください。

一日一日を大切に生きてください。

頑張りましょう。



## 心だって“かぜ”をひく

あなたの命は、ひとつしかありません。

あなたの命は、あなただけしか持てません。

あなたの命は、いとしく、かけがえのないものです。

命を大切に、自ら閉ざすことなく、永遠に守り続けてください。

そして、他の命を脅(おびや)かすことなく、優しく温かい心を持ってください。

もうひとつ、親より先に旅立ってはいけません。

絶対に、絶対に。

人の心は、時々かぜをひきます。誰だって、心が苦しいときがあります。私たち大人でも同じです。ですが、人の心や考えは、同じ所に留まることはなく、時とともに変化していきます。苦しさが一生続くことはありません。かぜをひいた心は、必ず元気になることができます。あせらずゆっくりと、心のパワーを回復させていきましょう。

もし、友だちがSOSを出してきたとき、自分の力では解決できないこともあります。「命」に係わるSOSの場合はなおさらです。そのときは、友人の危機に適切に対応できるよう、「ゲートキーパー」としての役割をはたすよう心掛けてください。信頼できる大人へつなげることが重要です。



君たちの生活は恵まれている環境にあります。

ハ中だより11月号で、私がケニア(ナイロビ日本学校)に3年間赴任した時のことを紹介しましたが、ケニアでの生活は、危険と隣り合わせです。強盗やカージャック、発砲事件など日本では考えられないことが数多くあります。町中を自由に歩くことは一切できません。貧富の差が治安の悪さに繋がっています。

町には、親の顔もわからず、住むところもないストリートチルドレンが多くいます。子どもたちは、渋滞している車列に近寄り「マネー、マネー」と手を差し出し、お金を要求してきます。ですが、決して現金をあげてはいけません。なぜなら、そのお金は、空腹や寂しさを紛らわすためのシンナー代として消えてしまうからです。もし、何かを与えるのなら『パンを与えなさい』と、赴任時に教わりました。

悲しい現実です。

学校へ行かれない子どもやゴミ山で働いている子どももいます。ケニアでは、子どもたちの児童労働、栄養失調、HIV感染は、大きな社会問題となっています。数年前のデータでは、5歳から14歳の児童労働は26%、15歳女の子の結婚率は25%だそうです。このような環境の中で、自分の命や体を大切にすることや、他人のことを思いやることなど、豊かな心を育むのはとても困難なことです。

明日の自分の生活ですら、考えられないのです。

ケニアだけでなく、世界には様々な境遇の子どもたちがいることを知り、自分たちの生活を振り返り、そして今、何ができるのかを考える機会としてもらいたいと思います。

恵まれた環境があるからこそ、自己の可能性を伸ばし、  
他者を思いやる豊かな心が磨かれるのではないのでしょうか。  
何事も前向きに挑戦し、人と触れ合い、たくさんの経験を積んでください。  
心清き人、心強き人、心深き人、心広き人になれるように！